

2019年度通期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

- ✓ 日時 :
2020年5月14日（木）16時00分～17時00分
- ✓ 当社出席者 :
代表取締役社長 佐藤、常務取締役 竹内、取締役 古川

【全体】

Q) 新型コロナウイルスの影響により売上減が見込まれるが、コスト削減の余地はあるか。

A) 4Q19時点で、広告宣伝費を前年比10億円程度減らした。これ以外にも経費削減を進めており、1Q20もコスト削減を行っている。

Q) 中期経営計画の方針について変更等は考えているのか。

A) 足もとの事業環境は厳しい状況にあることは認識している。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響を見極めたうえで、中期経営計画の修正の必要性を判断する。時計事業と工作機械事業をコア事業に据え成長を図る方向性に変更はない。

【時計事業】

Q) 4Q19の時計事業の地域別の状況は。

A) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う時計事業の影響については、中国では2月に大きく落ち込んだが、その後、回復傾向に向かっている。

一方、日欧米では3月以降に実店舗が閉鎖となったことから大きく落ち込んでいる。

Q) 今後のスマートウォッチ戦略に変化はあるか。

A) ハイブリッド式スマートウォッチ市場の成長見通しに乖離が生じ、戦略変更が必要になった。ハイブリッド式スマートウォッチは中長期的には伸びていくことも考えられるが、ハイブリッド式スマートウォッチ向けのムーブメント販売を伸ばすよりも、Fossil社向けのムーブメント販売に注力していく。当社が取り組んでいる Riiiver はまだ売上規模は小さいものの、着実に伸びており今後、開発費用や販売促進費用をかけていく。

Q) EC 販売強化について現在の取り組み状況は。

A) 中国市場では EC 販売が 6 割近くを占めており、ネット上の様々なイベントが好評を博している。実店舗と EC 販売とで取扱製品を変える取り組みは以前から行っている。直販 EC では、品質保証等のアフターサービスや、イベントやニュース情報の配信などを行っており、取り組みが進んでいる中国・北米に加え、国内市場でも展開したい。

Q) ムーブメント市場の今後の見通しは。

A) ムーブメント市場は厳しい状況が続いているうえ、4Q19 は新型コロナウイルスの影響が加わり大きく落ち込んだ。今後、ムーブメント市場は大きく回復することは難しいと見ており、既に減産対応を行っているが、現在の生産規模を縮小し、適正な需要水準を見極めていきたい。ムーブメント製造工場では一時帰休等を実施しており、1Q20 も低い生産水準となる。

【工作機械事業】

Q) 工作機械の受注状況はどうだったのか。

A) 中国市場はスマートフォン関連向けで大口受注を獲得したこともあり、堅調だった。国内市場の落ち込みは限定的であったが、欧米の落ち込みが大きかった。1Q20 の受注状況については、今後の欧米市場の経済再開状況に依存することになるだろう。

以 上